

# 令和五年度 中学生の「税についての作文」

野田市長賞

## 形を変える「税」

野田市立東部中学校 第三学年 土肥 ステファニー椿

税とはなぜ出来たのだろうか。誰の為に、いつ作られたものなのか。歴史を振り返れば「大化の改新」から始まったということが分かる。当時納められていた租、庸、調は都の大蔵省へ運搬され中央政府の財源へ充てられていた。税も少しずつ形を変えて、税金が納められるようになった。

現在、税金は約五十種類ある。例えば、商品を買うと同時に「消費税」が発生し、家や土地をもつと「固定資産税」がかかる。

様々な場面で私達と関わる税金は『社会保障関係費』に最も多く使われているようだ。医療や年金、介護、生活保護など、総額二十兆円を超える経費によって私達は支えられている。

私の祖父は昨年亡くなった。歳を重ねることで、行動に制限がかかり、働いて給料をもらうという若い社会人のような生活は出来なくなっていた。そんな中、祖父を支えていたのは年金だった。小さな子供や働ける若者だけに限らず皆平等に「税」という形で支えられている。

私達学生も一日中ずっと「税」に支えられた生活を送っている。安全な食品を作るための農業・漁業、道路や信号などの設備、学校内での机や椅子、部活動での大会が行われる施設、警察や消防などの、皆を危険から守る事も全て、税金があるおかげで成り立っているのだ。しかし、挙げた例は一部であり、他にも沢山の場面で助けられている。消費税など、生活する上では国の為に支払い続ける必要があるけれど全てが私や家族、友人にとって快適に暮らしていけるように使われているのだと知り、「税」の重要性も感じた。

きっと、私の体が自由には動かなくなり、お金を稼げず生活をしていくようになった時に、年金以外にも様々な形で「税」に支えられるのだと思う。生涯、「税」無しで暮らすということは難しいのだと改めて知ることが出来た。「税」が私達に与える利益や環境をこれからも継続していけるように、積極的に行動をして関心を持つことが大切だと考えた。

私達の為に、古くから存在する「税」に対して、幅広い年代から個々の思いや経験を交えて意見が飛び交う世になればよいと感じた。